

日本医療薬学会 第5回フレッシュャーズ・カンファランス開催報告書

第5回フレッシュャーズ・カンファランス
実行委員長 伊藤清美

2022年6月12日（日）に第5回フレッシュャーズ・カンファランスを武蔵野大学武蔵野キャンパス（東京都西東京市）にて開催いたしました。本カンファランスは、薬学部の学生や大学院生、研究活動経験の浅い薬剤師などを主たる対象に、研究成果の発表の場として2017年に第1回が東京で開催されました。それ以降、1年ごとに東京と関西地区で交互に開催することとじていましたが、第2回は豪雨のため当日の発表ができませんでした。第3回は東京で無事に開催されましたが、第4回は新型コロナウイルス感染症の拡大により1年の延期を経て昨年（2021年）、オンラインで開催されました。

今回は、まだ感染状況が完全に収まらない状況の中、現地開催の有用性と遠方からの参加者への配慮の必要性について事前の実行委員会で討議し、現地開催とオンライン（ライブ配信）のハイブリッド開催といたしました。口頭発表36演題（うち現地発表17演題、オンライン発表19演題）、ポスター発表24演題（うち現地発表17演題、オンライン発表7演題）の登録があり、参加登録者は183名（うち現地参加97名、オンライン参加86名）でした。口頭発表に3教室、ポスター発表に2教室を使用し、オンラインでの発表はいずれもZoomのブレイクアウトルームにてライブでの質疑応答を可能としました。座長をはじめ参加者の方々からの多くの質問が寄せられ、活発な討論がなされていきました。ハイブリッド開催とすることで、現地開催とオンライン開催それぞれの有用性を再確認できたと考えます。

オンラインでのポスター発表を除く全演題を対象に、実行委員12名による優秀演題発表賞の選考を行いました。科学的かつ教育的な評価基準について事前に協議し確立した評価方法に従って、口頭発表13演題、ポスター発表5演題が選出されました。

本会の締めくくりとして、本学会会頭 山本康次郎先生（群馬大学大学院医学系研究科教授・医学部附属病院薬剤部長）から「科学研究とはどのような活動か」と題して教育講演を賜りました。研究の意義や研究者としての責務に加え、研究倫理、論文の書き方などについて具体的にご教授いただき、フレッシュャーズの皆様の今後の研究活動を後押しする貴重なメッセージを頂戴することができました。

最後に、今回のフレッシュャーズ・カンファランスを開催するに当たり、実行委員会の皆様、本学会事務局の星様、株式会社サンプルネットの佐々木様をはじめとする関係の皆様、そして武蔵野大学の教職員・学生の皆様に大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。